

アカスジカスミカメの防除要否の判断基準			
【要約】 アカスジカスミカメによる斑点米率は、雑草地等の本種の生息地から 10m 以上離れると平均 0.1%以下となる。そのため、ほ場集積された平坦地水田群で本種が優占する場合、雑草地から 10m 以上離れたほ場では防除の必要性が低い。			
農業技術振興センター・環境研究部・病虫害管理係		【実施期間】 平成 27 年度～平成 29 年度	
【部会】 農産	【分野】 環境に配慮した農業・水産業	【予算区分】 県単	【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

これまでの研究成果から斑点米の被害は畦畔際に集中することが明らかになっている。本研究では、斑点米カメムシの一種であるアカスジカスミカメが優占する平坦地において、雑草地からの本種の拡散や隣接ほ場の斑点米の発生状況から防除要否を判断できるデータを取得する。取得データから、ほ場集積に対応した新たな省農薬防除について提案する。

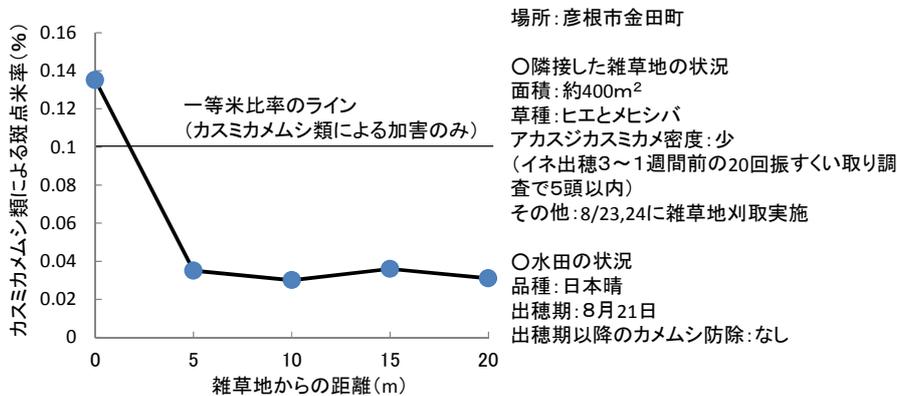
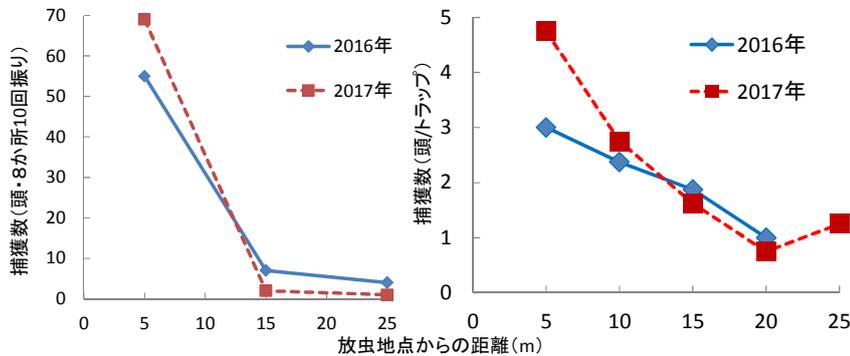
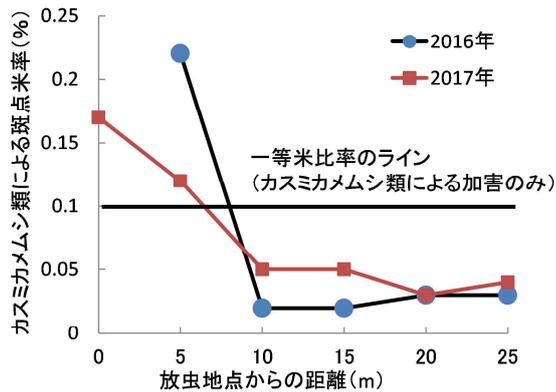
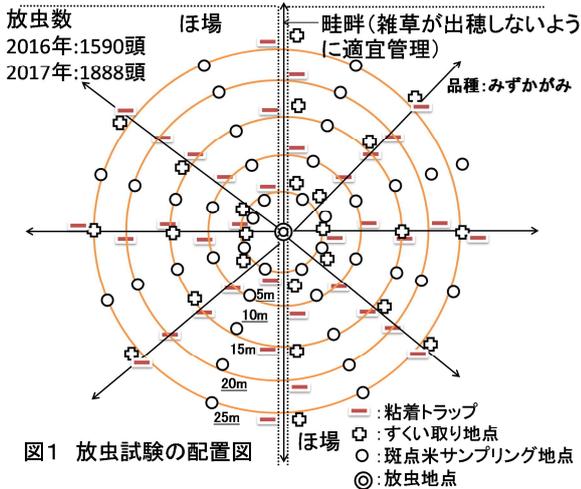
【成果の内容・特徴】

- ① 畔際 1 地点から粉末蛍光顔料を付着させたアカスジカスミカメを、多発生に相当する頭数を放虫した結果 (図 1)、すくい取り調査と、フェロモントラップ調査ともに放虫地点に近いほど捕獲数が多い (図 2)。また、カスミカメムシによる斑点米率は、放虫地点から 10m 以上離れると、一等米の等級基準内の 0.1%以下となる (図 3)。
- ② アカスジカスミカメ少発生の雑草地に隣接したほ場では、雑草地から 5m の範囲を超えると斑点米率が 0.1%以下となる (図 4)。さらに、雑草地から 1.8m 以上離れると、斑点米率は 0.03%程度であり、一等米の等級基準内となる。
- ③ 以上の結果から、通常のアカスジカスミカメの発生量では、雑草地から 10m 以上離れると、斑点米率は平均 0.1%を超える可能性が低い。そのため、ほ場集積された平坦地水田群で本種が優占する場合、雑草地と隣接した水田以外では防除の必要性が低くなる。

【成果の活用面・留意点】

- ① アカスジカスミカメが優占する平坦地を想定したものであり、その他の斑点米カメムシ類が優占するほ場では、この結果は適用できない。
- ② これらの結果は、イネ出穂期の 2～3 週間前と出穂期頃の 2 回連続草刈りの実施と水田内におけるヒエなどの雑草の除去を前提としている。

[具体的データ]



[その他]

・研究課題名

大課題名:琵琶湖をはじめとする環境に配慮した農業・水産業の展開に関する研究

中課題名:農薬安全使用技術・減農薬栽培技術の確立

小課題名:大規模稲作経営における水稻主要病害虫の減農薬管理手法の開発

・研究担当者名:重久眞至(H27~H29)、近藤博次(H27~H29)、塚本敬之(H27~H29)、山本雅則(H27~H29)

・その他特記事項:平成27,28,29年度近畿中国四国農業試験研究推進会議(病害虫推進部会問題別研究会「虫害分科会」)で発表。農業技術振興センター研究発表会で一部を発表(平成29年度)